琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係　一般重要案件(3)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43795

弘国学徒追悼慰霊祭援助金

官房長
JUN 22.1965
官房総務参事官

北米局長
参事官
北米課長

一般重要

殉国学徒追悼慰霊祭に
対する援助金支出方願出に関する件。

40.6.21
北米課

1. 沖縄殉国学徒追悼慰霊祭準備委員会より、本年6月23日は、沖縄で勤員されて殉国した学徒の満20周忌に当り、同日慰霊祭を開催する趣をもって、外務省よりもなにがしかの援助金を頂きたい旨、別添の通り官房長宛申出たよしである。

2. 戦没者慰霊の行事は、厚生省の所管であり、沖縄関係どう見地からすれば、特別地域連絡局の所掌であり、外務省としては ~~本件行事には、極めて~~

GA-4

3101

外務省

沖縄に関する米国との交渉事務に
属しない、全く国内的な行事である
本件追悼会に、は後援の措置をとらないが ~~特連局又は厚生~~
~~省に先んじ、又は同列で、参加~~
~~すべきではないと~~ 認められる
(~~本来本件は外務省には全く関係のない事~~)

3. よって ~~関係者に対しては、本件は特連局~~
~~又は厚生省に申し出でられたい旨~~
~~伝えることと致したい。~~

この方針に従い関係者よりの電話連絡に対し事21日、本件後援方は厚生省の法が特連局へ申出るのが適当と考える旨を伝へ、特連局へも(総合課長へ直接)その旨電話で取っておいた。

GA-4

外務省

趣意書

殉国沖縄学徒追悼慰霊祭準備委員会

殉国学徒顕彰会

趣意書

祖国の栄光を信じ、微笑んで出陣して征つた学徒たちが還らなくなつてから、今年でもう二十年になる。

中でも胸を打つて悲しいのは、今次大戦で最後の激戦地となつた我が沖縄県の学徒たちである。

今でも八文半の軍靴として、涙の中に語られている慶良間島に於ける小学生の玉砕を始め、黒髪長く夢多かつた女学生が、ひめゆり部隊、白梅部隊、ずいせん部隊、梯梧部隊、積徳部隊等を編成して軍属となり、砲煙弾雨の中に身を挺して看護の任を遂行し、また童顔の中学生が鉄血勤皇隊を組織して陸軍二等兵になり、急造爆雷を背負つて敵戦車に突入し、或は息絶えるまで通信の任務を続行し或は手榴弾を固く握りしめて敵陣に斬込み「大日本帝国萬歳」を絶叫したのである。

歳月風霜も消し難きこの事実――果して何処の国に、このような最期を遂げた学徒があつたであろうか。。。（これらの学徒につ

顕彰会

趣意書

祖国の栄光を信じ、微笑んで出陣して征つた学徒たちが還らなくなつてから、今年でもう二十年になる。

中でも胸を打つて悲しいのは、今次大戦で最後の激戦地となつた我が沖縄県の学徒たちである。

今でも八文半の軍靴として、涙の中に語られている慶良間島に於ける小学生の玉砕を始め、黒髪長く夢多かつた女学生が、ひめゆり部隊、白梅部隊、ずいせん部隊、梯梧部隊、積徳部隊等を編成して軍属となり、砲煙弾雨の中に身を挺して看護の任を遂行し、また童顔の中学生が鉄血勤皇隊を組織して陸軍二等兵になり、急造爆雷を背負つて敵戦車に突入し、或は息絶えるまで通信の任務を続行し或は手榴弾を固く握りしめて敵陣に斬込み「大日本帝国萬歳」を絶叫したのである。

歳月風霜も消し難きこの事実――果して何処の国に、このような最期を遂げた学徒があつたであろうか。。。（これらの学徒につ

いては「殉国沖縄学徒隊愛と鮮血の記録。。。金城和彦著」として近く刊行する予定）

沖縄の山河は黙々として誇ることもなく学徒たちの眠る激戦地のあとには、いみじくも野の草が繁り、虫がすだくようになつた。

静かに瞑目して耳を傾ければ、今は亡き学徒たちの声なき声が聞えてくるようである。

今や我が国は、高度経済成長の中で大平ムードを満喫しているが、思えば今日のこの繁栄と平和の陰に、一死以て戦つたこれらの学徒のあつたことを忘れてはならないと思う。

ここに沖縄戦が終つた六月二十三日を想起して学徒たちが、「九段の社」に行けるのを無上の喜びとしていた靖国神社境内に於て、同神社神職により九段会館に於て「殉国沖縄学徒追悼慰霊祭」を行い、併せて「追悼の夕べ」を催すことにした。

何卒絶大なる支持と賛意をお願いする次第である。

期日　昭和四十年六月二十三日

「殉国沖縄学徒追悼慰霊祭」

「追　悼　の　夕　べ」

会場　九段会館ホール

時　午後一時～二時

午後二時～五時　三〇分

壱口　貳千五百圓也

委員

（五十音順）

弁護士　赤司卓治
衆議院議員　安藤覚
学習院大学　麻生磯次
ブリヂストンタイヤ社長　石橋正二郎
評論家　伊藤見禎吉
衆議院議員　今松次郎
著述業　門田武雄
参議院議員　大谷贇雄
放送ジャーナル社長　大場格之介
元琉球主席　大田政作
早稲田大学総長　大浜信泉
評論家　小汀利得
衆議院議員　岡崎英城
衆議院議員　加藤高蔵
衆議院議員　賀屋興宣
厚生大臣　神田博
国務大臣　河野一郎
明治大学　小出廉二
専修大学　相馬勝夫
衆議院議員　田中栄一
衆議院議員　床次徳二
著述業　徳川夢声
大洋漁業株式会社　中部謙吉
衆議院議員　長谷川峻
時事通信社　長谷川才次
立教大学　松下正寿
日本通運株式会社　福島敏行
評論家　御手洗辰雄
日本大学総長　古田重二郎
大正海上火災保険株式会社　村瀬逸三
評論家　細川隆元
日本経金属株式会社　安田幾久男
東京瓦斯株式会社　本田弘敏
日本航空株式会社　松尾静磨

昭和　年　月　日

殉国沖縄学徒追悼慰霊祭準備委員会

事務局責任者　東京都千代田区神田猿楽町一ノ十三
TEL（291）五五九三、（292）八七七八

靖国神社　池田権宮司
作家　山岡荘八
日本橋高校教授　金城和彦
元国士舘教授　島田春雄

東洋書館社長　大井徳三
著述業　宮本幸誠
〃　長岡添弘
〃　日野藤吉郎

式次第

時刻参列者一同著席
齋主以下神職著席
一、開式の挨拶
一、吹奏楽（海行かば）
一、修祓
一、招魂　警蹕（和琴、笙）
一、献餅（山の幸　吹奏）
一、齋主祝詞奏上
一、主催者代表祭文奏上
一、殉国学徒レクエム　斉唱
一、玉串奉献（この間吹奏　慰安する）
　主催者代表、遺族代表、来賓代表、沖縄学徒代表
　斉　主
一、撤餅（海の幸吹奏）蓋のみする
一、送魂（警蹕、和琴、笙）
一、閉式の挨拶
　各　退　下

追悼の夕べ

追悼慰霊祭、一時～二時
追悼の夕べ、二時三十分～五時